

院内中期計画

(平成30年度～平成35年度)

【看護局・薬剤局・医療技術部・事務局】

茨城県立中央病院

平成29年10月

平成30年8月改訂

はじめに

茨城県立中央病院は、茨城県立こころの医療センター、茨城県立こども病院とともに平成30-35年度の中期計画を作成中です。茨城県立中央病院としては、病院内の各部署(診療科, センター, 委員会, 局など)ごとに中期計画を立て、ボトムアップに本院の中期計画を立てることを試みています。

今回が初めての試みであることから、各部署の中期計画は必ずしも病院が公認する(実現を保証する)ものでは有りませんが、各部署の中期計画を病院として応援してゆく所存です。各部署の中期計画は、副院長が指名した担当者、副院長、病院長が順にチェックしていますが、各部署の意向はできるだけ尊重しています。すでに、本病院の中期計画に採用させていただいているものも少なくありません。

本病院の中期計画は3年後にしか見直す機会が与えられませんが、病院内の各部署の中期計画は毎年変更することを許容する方針です。このような試みを継続することで、各部署の中期計画の集大成として病院の中期計画を作成することを実現できるようになるでしょう。病院運営を目標達成型運営, ビジョン追求型運営とし、トップダウン型運営からボトムアップ型運営へ変換してゆくきっかけになることを期待しています。

今回、各部署の中期計画を診療科, センターなどに分けてまとめさせていただきました。ホームページにも発表することで、院外からご意見をいただくとともに、院内においては他の部署の中期計画を理解し、今後の改訂の参考にしてもらいたいと考えています。

平成29年10月1日

病院長 吉川 裕之

目 次

看護局	4
薬剤局	5
放射線技術科	6
臨床検査技術科	7
リハビリテーション技術科	8
栄養管理科	9
臨床工学技術科	10
企画情報室	11
診療情報室	12
総務課	13

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	看護局			
ミッション等	ミッション: 患者・家族に対する安全で安心な看護の提供 ビジョン: 高度急性期医療・地域支援を担う看護の提供と人材育成			
中期計画の項目	a)急性期看護・専門性の高い看護の提供 b)地域連携の推進 c)働きやすさの向上			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		・現在の病棟・外来運営が可能な看護師の確保・育成と、離職率の維持、かつ夜勤回数が11回/人・月以上にならない人数および体制の確保	・現在の病棟・外来運営が可能な看護師の確保・育成と、離職率の維持、かつ夜勤回数が9回/人・月以上にならない人数および体制の確保	→
		外来入院センターの機能拡充や外来からの地域連携システムの試行	外来入院センター機能拡充や外来からの地域連携システムの拡大、およびと病棟外来連携の強化	→
		専門性の高い看護師の育成(認定看護師2人/年以上、特定行為修了看護師3人/年以上)等と地域における活用の促進		→
		H33年度	H34年度	H35年度
		・現在の病棟・外来運営が可能な看護師の確保・育成と、離職率の維持、かつ夜勤回数が8回/人・月以上にならない人数および体制の維持	→	→
		外来入院センター機能拡充や外来からの地域連携システムの拡大、およびと病棟外来連携定着	→	→
		→	→	→
計画期間前(平成29年度まで)の実績	・看護必要度33%、在宅復帰率94%、平均在院日数12日台の数値が示す急性期看護の実施 ・認定看護師・特定行為研修修了看護師等が県内最多レベルとなる教育体制の構築 ・育児や治療との両立を含めた働きやすさへの丁寧な支援による低離職率(5%未満)の維持 ・訪問看護・看護師不足地域病院・師説等への看護師派遣による地域包括ケア推進			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	薬剤局			
ミッション等	ミッション(存在意義):患者本位の安全で最良な薬物療法を提供する。 ビジョン(目指すゴール):薬剤師の資質向上,安全な薬物療法の確保,患者負担の軽減。			
中期計画の項目	a)専門性の高い診療へのさらなる薬剤師の参画 b)医薬品の安全管理体制の強化 c)後発医薬品採用の推進			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	外来がん治療認定薬剤師をはじめとした幅広い分野での認定薬剤師の養成(講習会への派遣等) 現在の業務を見直し,薬剤師の職能を生かした入院支援等チーム医療への参画強化		→
	b	医薬品の安全管理に係る研修の強化		→
	c	後発医薬品指数0.9以上を維持するため年2回採用品目の後発医薬品への切替え検討を行う。		→
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	1名認定取得		(H36年度に認定取得)
	b		新棟建設に伴う,手術室等での薬剤の安全管理の強化のための薬剤師配置(1名増員)	→
	c			→
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a)平成28年度にがん専門薬剤師,がん薬物療法認定薬剤師,外来がん治療認定薬剤師各1名が認定取得。NST,ICT, 隣がん教室などに薬剤師が参画している。 b)平成29年度から医薬品の安全管理に係る科内研修を強化。(月1回開催予定) C)平成29年4月1日の後発医薬品指数:0.94		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	放射線技術科			
ミッション等	ミッション:放射線診療機器の安全性確保と効率的な運用 ビジョン:放射線診療機器等については延長使用対応を含め、計画的な整備を進める。			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 A)放射線診療機器更新(オーバーホール等含む)の計画的な実施 B)放射線診療機器等に関する医療安全研修会の定期的な実施			
年度別計画		2018(H30)年度	2019(H31)年度	2020(H32)年度
		放射線診療機器等の計画的整備 1. MR室1 1.5T (現・MAGNETOM Avanto) 2006年設置	放射線診療機器等の計画的整備 1. CT室1 (現・Discovery750HD) 2009年設置	放射線診療機器等の計画的整備 1. RI室 (現・Symbia T) 2008年設置
		診療放射線技師1名採用 (定数確保)		
		2021(H33)年度	2022(H34)年度	2023(H35)年度
		放射線診療機器等の計画的整備 1. X線室2 起倒式撮影装置 2008年設置 2. 乳腺撮影装置・マンモトーム 2009年設置	新棟竣工に伴う、 放射線診療機器等の整備 1. 新棟放射線診療機器の整備 (更新・移設ほか) (1) 新棟・救急(更新・新規) 一般撮影装置×2 (2) 新棟・救急 CT(更新) (現救急・SOMATOM Def. AS+) 2011年設置 (3) 新棟・救急 MR(新規) (4) 新棟・救急 X線TV(新規) 2. MR室2 3T (現・MAGNETOM Verio) 2009年設置 3. 内視鏡室X線TV装置 2008年設置	放射線診療機器等の計画的整備 1. X線室8 X線TV装置 2009年設置 2. CT室2 (現・SOMATOM Def. .Flash) 2013年設置 3. 血管撮影室(IVR-CT) (現・AXIOM Artis Zee+CT) 2013年設置 4. PET室 (現・Biograph mCT-S(64)3R) 2013年設置
			診療放射線技師1名増員 (定数+1) ※ ハイブリッド手術室対応	
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	1. 骨密度測定装置の更新			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床検査技術科				
ミッション等	ミッション: 公立総合病院・地域ガンセンターとしての幅広いニーズへの対応 ビジョン: 病理学的がん診断, 遺伝子学的治療への貢献, 健診センター開設				
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために次の項目に取り組む a) 増加する病理・細胞検体に対応し, 迅速かつ精度の高い診断を行う(分子病理診断を含む) b) 遺伝子関係(コンパニオン診断)に対応する体制づくり c) 超音波検査の充実と健診センター(人間ドック)開設に向けた取り組み				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a	*病理組織検査領域 臨床検査技師による切り出し業務は, 手術例約3000件/年のうち約1500件/年を目標に行う ・各種癌取扱規約に基づく定型的切り出し方法の学習と習得	切り出しの開始(初年度) 年間3000件のうち500件を目標に行う 特定の1～2名が実施する	切り出しの開始(2年目) 年間3000件のうち750件を目標に行う 新たに教育した特定の1～2名が実施する	
		*分子病理診断の拡充 ・組織バイオバンク 現状調査 ・内視鏡検体採取への協力体制	☆職員新規採用(1名増)H30年度分定員増	倫理審査準備, 予算申請(継続) 内視鏡技師認定取得準備	
			基礎調査, 先進施設見学, 予算申請		
	b	*血液内科、化学療法センター、遺伝子診療部等と協力し体制づくりを行う ・遺伝治療に関する情報収集 ・遺伝子診断部門における情報の収集と蓄積	・遺伝性腫瘍に関係する遺伝子検査の情報収集 ・遺伝子(染色体)担当技師養成に向け先進施設の見学	・遺伝子(染色体)担当技師養成(外部先進施設で研修)	
	c	*超音波検査の拡充に向けた人材育成と機器整備 ・人間ドック枠の増加(年間100人増) ・超音波検査認定技師の養成(循環器・消化器・乳腺・血管等各領域) ・心臓超音波診断装置の購入 ・腹部超音波診断装置の予算計上	・循環器心臓超音波検査枠の増加 ・人間ドック枠の増加(年間150人増) ・心臓超音波診断装置の予算計上(新規)	☆職員新規採用(1名増)H32年度分定員増 ・心臓超音波診断装置の購入	
		H33年度	H34年度	H35年度	
	a	切り出しの開始(3年目) 年間3000件のうち1000件を目標に行う 新たに教育した特定の1～2名が実施する	切り出しの開始(4年目) 年間3000件のうち1500件を目標に行う	切り出しの開始(5年目) 対象臓器を拡大する	
		倫理審査・予算申請(継続) 内視鏡技師認定取得準備	バイオバンク検体受付開始 技師1名を段階的に内視鏡室へ派遣	バイオバンク対象検体拡充 内視鏡室へ正式派遣	
b	・遺伝子(染色体)検査の院内実施	・遺伝子(染色体)学的検査専任技師の養成	遺伝子関連検査機器購入		
c	・超音波検査認定技師の養成 ・人間ドック枠の増加	生理機能検査(超音波検査部門)の拡充 ・生理機能検査部門担当増	・生理機能検査部門担当増		
		・腹部超音波診断装置の予算計上(更新)	・腹部超音波診断装置の購入		
計画期間前 (平成29年度まで) の実績					

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	リハビリテーション科・リハビリテーション技術科			
ミッション等	ミッション(存在意義):リハビリテーション領域の診療・人材育成・臨床研究 ビジョン(目指すゴール):リハビリテーション診療における県央・県北の中核病院となる。			
中期計画の項目	・リハビリテーションのニーズに応えるため計画的に体制の強化・充実を図ります。 ・連続休止期間の解消に向け、休日リハビリを開始します。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	ア	組織体制と機能の充実・強化 理学療法士1名増員 作業療法士1名増員 嚙下チームとの連携強化	理学療法士1名増員	理学療法士1名
	イ	リハビリテーションの連続性の確保 疾患別リハビリテーションの理学療法・作業療法部門で3連休時の土曜日診療を本格実施 さらに月1回程度の拡大を検討言語聴覚療法部門は年末年始・5月・9月の連休時に土曜日診療を実施	週末のリハビリテーション継続と安定化	心臓リハビリテーション部門365日体制実施 疾患別リハビリテーション部門で365日リハビリテーションを提供できる体制の調査・研究
		H33年度	H34年度	H35年度
	ア	組織体制と機能の充実・強化 理学療法士2名増員 作業療法士1名増員 言語聴覚士1名増員		理学療法士1名 作業療法士1名
	イ	リハビリテーションの連続性の確保 疾患別理学療法・作業療法部門の休日診療の拡大 病棟看護師と連携・協働したリハビリテーション実施のシステム構築	周術期リハビリテーション対象患者の拡大	技師の病棟配置
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	○リハビリテーション科医師の増員(常勤1名・非常勤1名) ○人員の増員(平成29年度理学療法士1名) ○ゴールデンウィーク・年末年始中に加え、3連休時の土曜日診療を試行的に実施			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	栄養管理科				
ミッション等	ミッション: 最良の心ある食事サービスと栄養ケアを提供する。 ビジョン: チーム医療を実践し、栄養管理業務体制の充実強化を図る。				
中期計画の項目	a) 栄養食事指導の拡大・充実 b) 医療の質向上のための専門認定資格の取得推進 c) 管理栄養士の病棟配置の検討				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病透析予防指導管理料加算の算定 ・個別栄養食事指導件数の増加 			
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・がん病態栄養専門管理栄養士認定取得 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・NST専門療法士認定取得 1名 		
	c	各管理栄養士が担当病棟を持ち、患者の病態や食事摂取状況に応じた食事サービスの提供及び適切な栄養管理体制強化を図る。、			
		H33年度	H34年度	H35年度	
	a		<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック拡充に伴う食事相談 		
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・日本糖尿病療養指導士認定取得 1名 		<ul style="list-style-type: none"> ・NST専門療法士認定取得 1名 	
	c				
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	NST専門療法士 2名、日本糖尿病療養指導士 1名、人間ドックアドバイザー 3名			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床工学技術科			
ミッション等	ミッション: 生命維持管理装置などの操作や保守点検を行い、安全かつ高度な医療を患者に提供する ビジョン: 新規分野を含め、各担当分野でより専門的な知識、技術を習得し、高度な医療に対応する			
中期計画の項目	a、既存業務の内容充実 b、新規業務の開始 c、次世代の臨床工学技士の育成(学生指導)			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	在宅血液透析 ・新担当者の教育、普及活動 循環器内科 ・アブレーション領域解析業務、研修	在宅血液透析 ・患者への対応、普及活動 循環器内科 ・アブレーション領域解析業務、開始	→
	b		手術室の常駐 ・業務量調査	手術室の常駐 ・手術室内機器状況調査と 関連部署と業務内容調整 内視鏡センター業務 ・機器調査と業務内容確認、調整
	c	実習生関連 ・実習指導者講習会受講 (各責任者) ・受け入れ準備 ・受け入れ開始(H31.2～)	実習内容 再評価	→
		H33年度	H34年度	H35年度
	a		循環器内科 ・下肢関連業務、研修	循環器内科 ・下肢関連業務、開始
	b	手術室の常駐 ・常駐、機器管理開始 内視鏡センター業務 ・業務開始 新棟関連 ・新手術室、GCU、NICU機器調査 ・入院用透析センター準備	新棟関連 ・新手術室、GCU、NICU機器管理開始 ・入院用透析センター稼働 ・ハイブリット手術室関連研修	→ → →
	c			→
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	企画情報室				
ミッション等	ミッション: 県立中央病院の経営戦略の企画・立案。院内情報の適正管理, 分析・活用。 ビジョン: 県立中央病院の経営基盤の確立				
中期計画の項目	a) 院内情報の適正管理, セキュリティ対策の検討, 診療情報の分析・活用 b) 病院の経営に携わる人材の確保・育成				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a	<ul style="list-style-type: none"> 情報の適正管理, セキュリティ対策の検討及び実施 院内情報の分析, 活用(原価計算の手法等) 	→	→	
	b	<ul style="list-style-type: none"> 医療事務, 診療情報管理士の確保 事務職員の研修受講等によるスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 医療事務職等の事務局内の人事異動(当室, 医事課, 経営管理課等) 	→	→
		H33年度	H34年度	H35年度	
		→	→	→	
		→	→	→	
計画期間前(平成29年度まで)の実績	情報セキュリティ対策委員会の設置 原価計算ソフト(MDV)の活用調整				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	企画情報室(診療情報室)			
ミッション等	ミッション: 医療の質向上や臨床指標を算出するための精度ある診療情報管理の実施 ビジョン: 診療情報(医事情報, DPC, がん登録等)を利活用し、医療の質や病院運営に資するデータ提供や分析を実施			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a) 診療情報を利用し医療の質向上に資するデータ分析の強化 b) 診療録管理体制加算1の継続取得に向けた診療情報管理の強化 c) 院内がん登録の分析やがん登録の精度向上に向けた人材育成			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC(EVE)データを利用したベンチマークの実施 ・データ分析能力の強化 		→
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての退院患者に対し入院診療記録の量的・質的点検を実施 ・死亡診断書の監査を実施 		→
	c	<ul style="list-style-type: none"> ・国がん主催がん登録研修会に毎年1名参加) ・がん登録分析結果を医師へフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・中級認定者認定更新試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・初級認定者認定更新試験
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC(EVE)データを利用したベンチマークの実施 ・データ分析能力の強化 		→
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての退院患者に対し入院診療記録の量的・質的点検を実施 ・死亡診断書の監査を実施 		→
	c	<ul style="list-style-type: none"> ・国がん主催がん登録研修会に毎年1名参加) ・がん登録分析結果を医師へフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・中級認定者認定更新試験 	→
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	○適正な診療情報管理業務を実施するために学会、勉強会等に参加。 ○国がん主催がん登録研修会中級認定者研修に参加。 ○院内がん登録とDPCを利用したQI研究に参加し、標準診療実施率を測定した。		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	総務課(施設)			
ミッション等	ミッション: 変化する医療環境に適切に対応できるように施設の有効活用を図る. ビジョン: 中長期的視点に立って機能的な施設・設備の検討、企画、実施する.			
中期計画の項目	a) 老朽化, 狭隘化等により不足している院内の施設資源の有効活用の検討, 実施 b) 患者等来院者及び職員用駐車場の確保			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	・老朽化, 狭隘化等により不足している院内の施設資源の有効活用の検討, 実施 ・日々変化する医療環境に適切に対応 ・新プレハブ棟設置に併せて既存施設も有効に活用		
	b	・駐車場の確保に向けた取組の検討, 実施 ・近隣県施設や民地の借用 ・ゲートバー, ピストン輸送の導入検討, 実施		
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	・老朽化, 狭隘化等により不足している院内の施設資源の有効活用の検討, 実施 ・日々変化する医療環境に適切に対応 ・新プレハブ棟設置に併せて既存施設も有効に活用		
	b	・駐車場の確保に向けた取組の検討, 実施 ・近隣県施設や民地の借用		
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	○新プレハブ棟設置: 診療機能の充実や職員等の増加に伴い, 職員の執務室や更衣室等が狭隘化してきたため教育研修機能や執務環境の改善のため設置 ○病院施設整備検討会議: 限られた病院内施設を有効に活用し, 直面する課題に対応するため広く職員に意見を求め, 決定。(例: 事務局 → 医師室) ○近隣県施設からの借用: 県リハ(134台), 中央看専(6台) ○民有地の借用: 十ノ割(63台) ○院内駐車場不適正使用者の取締り		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	総務課(保育園)			
ミッション等	<p>ミッション: 当院職員の確保と定着を図り, 病院を円滑に運営するため病院職員等の乳幼児を保育する。</p> <p>ビジョン: 職員の活動を支援するために病児保育の導入などよりよい保育園を目指す。</p>			
中期計画の項目	<p>a)現場レベルでの連携, 運営委託契約の更新</p> <p>b)老朽化した施設の長期利用(感染対策を含む)のための取組</p> <p>c)病児保育・病後児保育の実施検討</p>			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	<p>現在の委託期間(H27～H31)</p> <p>→</p> <p>次期委託期間(H32～H36)</p>		
		<p>・入札方式・仕様書等の検討</p> <p>・保護者への事前告知 等</p>	<p>入札・引継ぎ</p>	
	b	<p>・老朽化した現在の施設を, 衛生環境の向上を図りつつ, 順次改修</p> <p>・新棟建設に併せて移転, 改築等も検討</p> <p>・職員数や園児数の動向を把握し, 必要に応じ入所時定員の見直しも検討</p>		
	c	<p>病児, 病後児保育の実施についての検討</p>		
		H33年度	H34年度	H35年度
a	<p>次期委託期間(H32～H36)</p>			
b	<p>・老朽化した現在の施設を, 衛生環境の向上を図りつつ, 順次改修</p> <p>・新棟建設に併せて移転, 改築等も検討</p> <p>・職員数や園児数の動向を把握し, 必要に応じ入所時定員の見直しも検討</p>			
c	<p>病児, 病後児保育の実施についての検討</p>			
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	<p>○運営委託: 平成25年度以降は, 父母会・保育園・中央病院で十分連携をはかってきたことから, 保育園運営は落ち着いた状況。今後も現場レベルで連携しつつ, 経営管理課やアートチャイルドケア(株)本社とコミュニケーションを図る。</p> <p>○施設改修, 更新: 園舎, 各設備を段階的に改修</p>			